

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	膵癌術後補助化学療法の完遂に影響を与える因子の検討		
2. 対象患者	通常型膵癌の診断で治療目的に受診し当科で2001年1月から2018年12月までに手術治療を受けた280名の患者さん		
3. 対象となる期間	2001年1月1日      ~      2018年12月31日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院 消化器外科		
5. 研究責任者	氏名	石戸 圭之輔	所属 弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	非常に予後の悪い膵癌に対して、手術治療の後に約半年間の術後補助化学療法を行うことが現在一般的になっております。同療法は膵癌術後の再発率を減らすことにより、予後延長効果につながるとされております。そのため、半年間の治療を完遂することが非常に大切です。しかし、化学療法の有害事象のため完遂できない患者さんも少なくありません。この研究では、術後補助化学療法の完遂率をより上昇させることにより、膵癌治療成績を改善させる意義を持ちます。		
8. 研究の目的	項目2記載の対象患者さんの診療録より、臨床所見、手術所見、術後所見などを検討し、術後補助化学療法を完遂と脱落に関連する因子を検討し、同療法の完遂率上昇への課題を明らかにすることを目的としています。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	診療録、血液画像検査を利用し、現病歴、既往歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、CTおよびMRI画像所見、術式、合併症などの手術関連情報を利用し、統計学的手法を用いて術後補助化学療法完遂を規定する因子を見出します。		
10. 個人情報の保護	患者さん個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外し、データを削除致します。ただし、既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究結果公表済みの場合は、データを修正することは出来ませんのでご了承願います。		
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者が所属する講座では大鵬薬品工業(株)、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、小野薬品工業(株)、(株)ヤクルト本社、エーザイ(株)、MSD(株)、日本イーライリリー(株)、第一三共(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。		
12. 連絡先	弘前大学附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科 石戸圭之輔		
	電話	0172-39-5079	FAX      0172-39-5080